



冬のハウス管理が決め手 てん菜の西部萎黄病対策

成果の概要

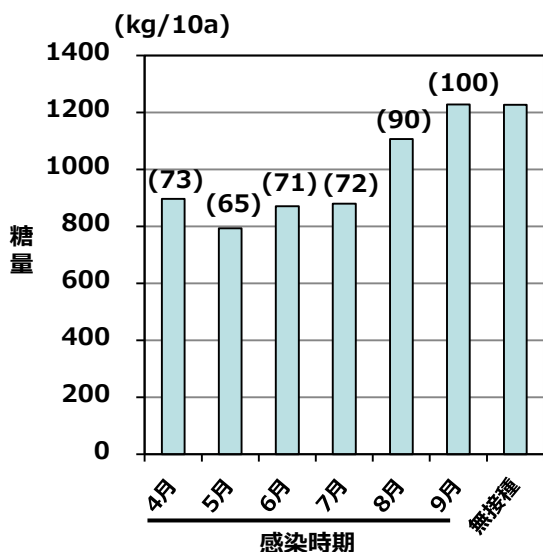
てん菜に感染すると葉が黄化し、糖量が約30%減収する“西部萎黄病”の発生生態を明らかにしました。得られた知見を活用して大規模に検証した結果、西部萎黄病の媒介虫であるモモアカアブラムシがハウスで越冬できない環境とする「越冬ハウスの適正管理」によって、周辺てん菜ほ場の病害発生を効果的に抑制できました。



西部萎黄病の激発圃場

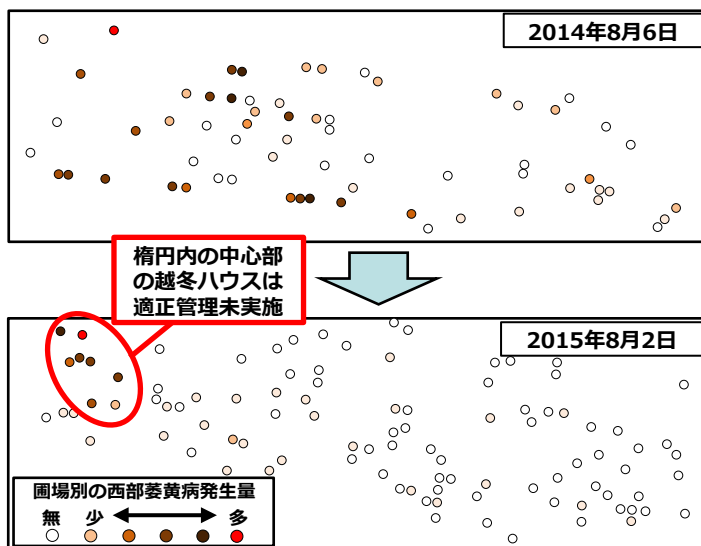
モモアカアブラムシ

感染時期と収量（糖量）の関係



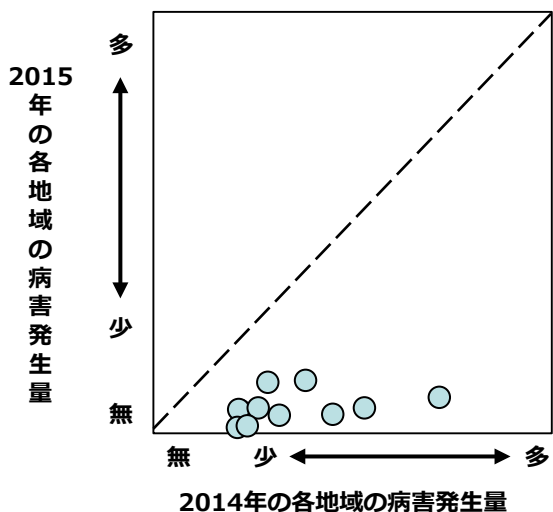
※ () は、無接種区の糖量を100とした時の数値を示した。

越冬ハウスの適正管理による抑制効果



※当該地域では、2015年2月に楕円内以外にある越冬ハウスを適正管理した。両年とも全戸に殺虫剤の灌注処理と茎葉散布が指導された。

実証試験の結果（十勝管内の11地域）



※各地域では、2015年2月に越冬ハウスの適正管理を実施した。

越冬ハウス適正管理の具体的方法

西部萎黄病抑制に効果の高い対策は、

1. 越冬ハウス(用途は限定しない)の被覆を冬期間に除去
2. 被覆除去しない場合、厳冬期に越冬ハウス(用途は限定しない)の中を、
 - ① 雑草及び作物残渣は枯死させるか除去
 - ② 栽培する作物にアブラムシ類が寄生しないよう管理

することにより、ハウス内を媒介虫が越冬できない環境にすること。